

## 世界のソーシャル・ビジネス

アジア・オセアニア編  
ニュージーランド「カルマ・コーラ」で  
アフリカの貧困救う

私たちにすっかり馴染みの炭酸飲料コーラは、世界中で毎日約19億本も飲まれている人気商品だ。しかし近年、含有糖分の多さが批判されているのも事実。そんな中、2012年にニュージーランドで産声をあげた「カルマ・コーラ」は生産者にも、環境にも、消費者にも配慮し、愛飲者が増えている。

(ニュージーランド・クロード・ディアー・真理)

コーラの主原料とされる  
コーラの原産地シエラレオネ  
共和国。西アフリカ西部に位  
置する同国は、2002年に  
終結した10年以上にわたる内  
戦と、2014年に流行った



オール・グッド社は「フェアトレード・アワーズ2014」で世界  
で最も公平な取引引きを行っている」と表彰された

エボラ出血熱の影響で、人々の生活は苦しい。

コーラの実を収入に結び付けたいが、大手飲料メーカーのコーラ飲料にはコーラの実が使われておらず、地元民が伝統的に食料や薬、儀式に用いる程度で、需要は頭打ち。価格も仲買人の言うなりだ。大きな市場で売ろうにも、整備不足の道路を運ぶのは難しく、途中にある検問所通過の際の支払いで利益は消える。

## 収入の用途は村民が決定

コーラの実の発見者ながら、何の益もないシエラレオネの人々の支援に乗り出したのが、ニュージーランドのオール・グッド社だ。有機バナナの輸入で成功を収めた同社の飲料の原材料は、すべてフェアトレードかつオーガニックだ。同社は、フェアトレード運動の中心人物として有名な英国のアルバート・タッカーさんや国際NGOを通じ、ティワイ地方にあるボーマ村とパートナーを組んだ。ボーマ村との取引引きは、

インフラの整備のみならず、フェアトレードとオーガニック栽培の枠組み作りから始まった。そして、長期にわたる安定かつ適正な価格でのコーラの実の取引引きと、サステイナブルな村の構築を望む村人の意向を着実に実行するため、同社はカルマ・コーラ・ファウンデーションを創設。村の自立を目指し、「村民こそが、村に何が必要かを知っている」という基本理念に則り、運営している。

4年前のカルマ・コーラ発



オール・グッド社のサイモン・コーリーさん、クリス・モリソンさん、マツ・モリソンさん(左から)

売以来、その実の代金と、1本売れるごとに5NZドル(約4円)、合わせて7万5千ドル(約826万円)が村と周辺のコミュニティに還元された。それを基に、村内の橋の建築、女子60人の就学、小学校教師の配置、エイズ教育のための演劇グループの支援、12の農場の再建、種子銀行の設置、エボラ出血熱のための医療品の入手などが実現した。

今年はゲストハウスを建設し、収入増加を図り、学校用家具の修理、村外に出て取引引きをする者の交通手段の確保などを旨とする。

「カルマ」という名が示す通り、コーラが売れば、村の再興に一歩近づき、コーラの実を継続的にオール・グッド社に供給できる。コーラは消費者の喉を健康的に潤し、満足した消費者はまたカルマ・コーラを買う——という訳だ。最近、日本でも入手できるようになったカルマ・コーラ。私たちもそのサイクルの一員となり、ボーマ村を助けることができる。

[karma cola] <http://karmacola.co.nz>[Kia Ora Organics] <http://kiaoraorganics.com>